

【授業科目】 老年看護援助論 I (健康を支える) Gerontological Nursing I

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
三好 陽子、藤井 夕香、古田 知香	2年次後期	必修	2	30	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する フィードバック 方法	授業概要／高齢者の健康な日常生活や、健康状態が高齢者の生活に及ぼす影響について理解できるよう学習を進める。また、高齢者の健康的な日常生活を支えるためにどのような看護が必要か、老年看護の実践について考える機会を提供する。ここでの学びを今後の看護実践につなげることを意識し講義を進める。 形式は講義を主とするが、認知症についてはDVDの視聴を取り入れ、実際の認知症高齢者をイメージすることにより高齢者への理解を深めることを目指す。講義時はプリントを配布し、教科書と共に使用する。 課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。							
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が 到達すべき 目標)	①高齢者の健康維持・増進の意義を理解し、高齢者にとってのQOLとは何かを考えることができる。 ②高齢者とのコミュニケーションの特徴がわかる。 ③高齢者の加齢による日常生活への影響をふまえ、高齢者および家族への看護援助の特徴がわかる。 ④DVDの視聴を通して認知症についての理解を深め、診断や治療、症状に合わせた対応方法がわかる。 ⑤高齢者の生活と健康を支える保健・医療・福祉制度とサービス内容について述べるができる。 ⑥地域に在住する高齢者が健康維持・介護予防のために、どのように運動機能を維持しているかに関心をもつことができ、高齢者のリハビリテーションに対する地域支援について自分の感じたこと・考えたことを表現することができる。							
時間外学習 に必要な 内容・時間	第1～15回事前学習：教科書の該当部分を事前に読み、疑問点や老年看護を実践していく上でどのような点に注意すべきか自分の考えを整理しておく（各30分）。 第1～15回事後学習：講義後は配布資料・教科書の該当部分を振り返って学びを整理し、疑問点は自ら調べたうえで教員に質問する。事後学習課題を次の講義までに実施し、発表できるように準備しておく（各30分）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回：高齢者の健康の特徴とQOL (高齢者の健康状態の捉え方、高齢者の自立を妨げる要因、高齢者のQOL) 第2回：高齢者の看護に活用できる理論(サヘルズエイジング、ウェルネスアプローチ、エンパワメント)と支援のあり方 第3回：高齢者とのコミュニケーション (高齢者のコミュニケーションの特徴、影響する要因：感覚機能の変化等) 第4回：高齢者の日常生活①(加齢による栄養・食事の変化と栄養障害：低栄養・脱水) 第5回：高齢者の日常生活②(加齢による排泄機能の変化と排泄障害：尿失禁・便秘) 第6回：高齢者の日常生活③(加齢による皮膚の変化と清潔・整容の維持) 第7回：高齢者の日常生活④(高齢者に多い皮膚障害：老人性皮膚掻痒症、疥癬、白癬、褥瘡) 第8回：高齢者の日常生活⑤(加齢による休息・睡眠・活動の変化と睡眠・活動障害) 第9回：高齢者のリハビリテーション ※レポート課題：心身機能の維持に向けた高齢者の運動について 第10回：高齢者のリスクマネジメント(生活のリスクとセルフケア) 第11回：高齢者の生活と健康を支える保健・医療・福祉 (現在の高齢者保健・医療制度と介護保険制度・サービス) 第12回：高齢者の生と死を支える看護 (高齢者の終末期の特徴、高齢者の終末期医療と看護) 第13回：認知症高齢者の理解①(認知症とは：認知症の症状と診断・治療) 第14回：認知症高齢者の理解②(認知症高齢者へのケア、今後の課題) 第15回：認知症高齢者の理解③(DVD視聴・認知機能評価の演習)・まとめ						三好 藤井 藤井 三好 三好 三好 三好 三好 古田 古田 藤井 藤井 三好 三好 三好	
評価方法 評価基準	課題レポート20%（グループワーク10%、レポート10%）、定期試験80%							
教科書	①堀内ふき・大淵律子『ナースィング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害』MCメディカ出版 ※2年次前学期の「老年看護学概論」で購入した教科書を引き続き使用します。 ②堀内ふき・大淵律子『ナースィング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践』MCメディカ出版			参考書等		講義の中で適宜紹介します。		
学生への 助言等	講義で理解できなかったこと、疑問に思ったことなど、必ずリアクションペーパーに書いて下さい。 次の講義時にお答えします。 講義中の携帯電話の使用・私語は禁止します。学習環境を整えましょう。							